



Hand in Hand 21 Plus

ハンド・イン・ハンド21 プラス



名取市男女共同参画情報紙

プラス 14号 2017年3月

名取市の男女共同参画社会の基本理念 “女と男、互いに認め、ともに輝きともに創る”

女性も男性も、お互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いながら、性別にとらわれることなくあらゆる分野でその個性と能力を十分に発揮できる社会、それが「男女共同参画社会」です。

今回は、第2次名取市男女共同参画計画の基本目標5「地域における男女共同参画の促進」と基本目標6「職場における男女共同参画の促進」について具体的な取り組みをご紹介します。

企業の役割として、経済社会の持続可能な発展や、企業の活性化の観点から雇用における男女共同参画の推進と、仕事と生活の調和の実現に向けた取り組みを推進する事が求められています。今回、パナソニック（株）仙台工場を訪問し、工場長の木谷さんと人事課の遊佐さんからお話を伺いました。

従業員のありたい姿の実現に向け やりがいのある職場環境の構築を！

パナソニック株式会社 仙台工場

パナソニック（株）仙台工場は1974年創業で、男性53名 女性15名の会社です。

現在は電気機器製造を主としており光ピックアップという光学部品を担当しています。生産拠点は海外が主で、仙台工場から生産、品質改善、設備の起ち上げといった支援を行っています。

やりがいのある職場風土

弊社では毎年コミュニケーションプログラムというものを実施しており、ありたい自分の実現に向けて各自の年間目標を上司との面談の中で共有しています。最近ではメールや電話でのやり取りが多くなっていますが、やはりface to faceでの会話に時間を多くとる事が重要と考えています。技能資格の取得については、男女問わず、練習や



遊佐さん

木谷工場長

講習会といった機会を平等に受けることができます。また、費用面での助成も行っていきます。

仕事と育児（生活）の両立支援について

結婚や出産で会社を離職される方はほとんどおりません。また、年間の有給休暇の取得日数は平均で15日程度、職場毎に計画表を作成するなど、年休取得を推進しています。時間外労働は20時間/月で抑えられるようにしていますし、

私自身（工場長）も定時で退社するよう心がけています。その方が部下も帰りやすいでしょう（笑・・・）。

全員活動について

地域の活動については基本全員参加としています。特に震災以降については可能な限り地域の活動に参加を呼び掛けるようにしています。社内の全員活動では、衆知を集めた全員経営の一つとして、工程改善活動を全員で行っています。また、安全衛生活動ではヒヤリ・ハット（自ら危険と感じた内容を改善する事）を継続し、安全な職場環境を第一に15年以上無事故を続けています。

今後について

新規事業を創出しこの工場で行っていきたく、新たな雇用の創出にも力を入れていきたい。また企業の責任という事で、地域との共生活動を積極的に推進していきたいと思っております。

【取材を振り返って】

女性だから・男性だからという感覚は無く、また年齢などに関係なく誰にでも活躍の機会を与える為に、職場の環境整備（良い風土づくり）に力を入れており“多様性”を重視した会社だと感じました。



人と人のつながりを大切に ～10年先を見据えた職場環境～

特別養護老人ホーム うらやす

一 施設の紹介をお願いします。

「もっと笑顔のためにできること」を基本理念に、社会福祉法人みずほが、その人らしい暮らしを支えるサービスを提供する特別養護老人ホームです。



運営者と職員の思いが一つになった保育所

一 事業所内保育所を作った経緯についてお聞かせください。



施設長
佐々木 恵子さん

介護施設は女性の働く割合が非常に高い業種だと思います（6割強が女性）。女性がキャリアを積んでいく為には、子育て期間の応援が必要だと思います。この施設は3年前に震災から再建した施設ですが、その時に沢山の女性スタッフに『おめでた』の時期がありまして、20代の若い女性たちに「どうしても仕事を続けてもらいたいなあ」という思いと、彼女達からも「保育所があったらいいのに」という意見があり、平成27年10月に事業所内保育所「すくすく園」をオープンしました。

「どうしても仕事を続けてもらいたいなあ」という思いと、彼女達からも「保育所があったらいいのに」という意見があり、平成27年10月に事業所内保育所「すくすく園」をオープンしました。

仕事と家庭の両立～理解ある職場の雰囲気～

一 職員の方が利用しやすい制度にする為に、どのような企業努力を行っていますか？



介護の事業は人手が足りないと言われていています。うちもすごく人員が潤沢な訳ではありませんが、規定より多い人員の配置がなされてい

る事と、保育所が出来る前から、ある程度子育て中の職員の変則勤務の緩和や夜勤から外れてもらうような配慮をしてきました。

20年間の運営をとおして、“順番だから”ということで、当時、小さいお子さんを育てた職員が、自分達の子育てが一段落して、現在子育て中の職員を一生懸命フォローするという流れが生まれてきています。産休に限らず、子育て中の職員の勤務時間、あるいは休暇等について、職員には比較的理解が得られているのではないかという気がします。また、男性職員もそんなに長い期間ではありませんが育児休業を取ったケースもあり、これから（11月）休暇を取得予定の職員もおり、それは施設の特徴かなと思います。

女性だけではなく、男性も子育ての為の休暇（病気の看護等も含む）を取り、保育所のお迎えに行くケースも比較的多いです。

一 現在は子育てが一段落した後に、介護の問題が出てくるケースも多いと思いますが。

こちらは高齢者施設なので、職員の親御さんにも非常に高い割合で利用して頂いていると思います（デイサービス、ショートステイ、あるいは長期入所等）。そこでも、ご家族の顔を見ながら仕事を続けていただけるような配慮をしています。

その他、子育てや男女ということに限らず、研修や会議で話し合いの機会を多く持っていることが特徴のひとつとして挙げられると思います。やはり職員間のコミュニケーションが大切だと思います。必ずグループワークをして話し合う



機会を持っていて、お互いに理解を深めています。一度、「この施設の強みは何だろう？」という事で職員と話し合いを持った時に「子育て世代の人達の応援体制がしっかりしている」という意見が上がってきてすごく嬉しいなと思ったことがあります。

した。

【保育所を利用している職員の声：介護職員Yさん】

一 介護のお仕事に就こうと思ったのは？

小さい頃から人と関わる仕事に就きたいと思っていて、おじいちゃん、おばあちゃんが可愛くて大好きだったので。



一 この施設の保育所を利用したきっかけは？

育児休暇中に、認可保育園の入園申請をしていたが、待機児童になってしまい困っていたところに事業所内託児所ができたので、利用させて貰うことにしました。

一 利用してのメリットを教えてください。

職場の敷地内にあるので、送り迎えが便利。また、何かあった時に連絡をいただいでから直ぐに対応できることです。

【取材を振り返って】

介護事業に限らず『人と人のつながり』が何よりも大切と話す佐々木さん。



子育て・介護など、家庭が大変な時期は誰にでも訪れる。目先の職場内の大変さだけにとらわれず、現在それに奮闘している人を助けてあげれば、10年後、その世代が次の世代を助ける人材になってくれる。そのような循環を促すこと

で、男女共に働きやすい職場環境にしていきたいとおっしゃっていました。

施設長の佐々木さんを始めとして、やさしく包



み込んでくれるような暖かみのある職場環境の為でしょう、現在までの産休・育休からの復職率は100%だそうです。

病院ボランティア「ひだまり」

宮城県立がんセンター

地域社会活動において男女が共に参画し、ボランティアとして積極的に活動している方々取材しました。ボランティア「ひだまり」には現在94名（男性11名・女性83名）の方々がボランティア登録し、活動内容は実に様々な分野にわたっており、自分の日程や時間に合わせて活動しています。

活動内容

《外来活動》

外来案内・診療案内・車椅子介助・荷物入れカート貸出・歩行器貸出・花活け・花壇手入れ・外来図書整理・傘貸出

《病棟活動》

病棟移動図書・CD貸出・ソーイング（帽子・ネックエプロン・巾着袋・エコバッグ）押し花しおり作り・図書室整理

《緩和ケア病棟活動》

中庭手入れ・花活け・ティーサービス・季節の行事手伝い・昔話・絵手紙教室・入浴介助・アロマ・エステマッサージ

《イベント活動》

絵手紙講習会・ロビーコンサート・ギャラリー展・ロビーコーヒータイム

～今回取材を受けていただいたボランティアの方々～



西垣信彦さん



真壁哲典さん



荒川捷英さん



小野寺芳子さん

— ボランティアを始めた理由やきっかけ及び始めた時期（期間）について教えてください。

- 西垣—知人の紹介で10年になります。
- 真壁—家族が入院したきっかけで12年です。
- 荒川—退職後ボランティアをと思い、県政便りの募集要項を見て応募し、まる3年です。
- 小野寺—早期退職後、友達に刺激され、自分もと思い、新聞の募集要項を見て応募、9年です。

— どんな活動をしているのですか？

- 西垣—コーヒーを入れることのみです。
※西垣さんは喫茶店を開いており、定休日に月2回ティーサービスの活動をしています。

- 真壁—外来受付補助・絵手紙教室等です。図書室の棚の仕切りやプランターも作りました。



- 荒川—外来受付補助・移動図書や本の回収・ギャラリー展の作品展示と取り外しなどです。



- 小野寺—花活け・ソーイング（帽子）・外来受付補助・移動図書や本の回収などです。

— 活動をしていて良かったことや感じていることなどを教えてください。

- 西垣—コーヒーを飲んで一瞬でもほっとしてもらえればありがたい。継続することが大切。
- 真壁—ボランティアは喜びの精神、活動できる喜びやありがたさを感じている。



- 荒川—在職中は男社会だったが「ひだまり」では立場の上下関係や男女差がなく平等で、素直に一人の人間として接することができる。

- 小野寺—仲間と楽しく活動し、患者さんや家族の方々から「ありがとう」と声をかけられると続けてきて良かったと思う。1週間のサイクルができ、やり甲斐に繋がっている。

— あなたにとってボランティアとは何ですか？

- 西垣—人のためでなく自然にふるまえる。



- 真壁—喜び！
- 荒川—生活の一部（リズムができています）。
- 小野寺—自分自身が癒やされ成長させてもら

っている場。

【取材を振り返って】

ボランティアの皆さんは、年齢も性別も違っており、活動を始めたきっかけや、理由、活動年数もそれぞれ違いますが、気負わずに自然体で活動に取り組んでいると感じました。一人一人が個性と能力を発揮し、性別にとらわれず自分に合った活動を、自信と責任を持って取り組んでいました。「ひだまり」の皆さんのように一步踏み出すことで、活動の輪や幅を広げることにつながるのではないのでしょうか。

「ボランティアで活動しているけど、無料で勉強させてもらい、皆さん生き生きと活動しているのが「ひだまり」とのボランティアリーダーの言葉が印象的でした。



男性セミナー～参加理由はコミュニケーション～

館腰公民館

ノルディックウォーキングの開催

平成28年10月26日(水)快晴気温23℃、風が気持ちの良いスポーツ日和。この日館腰公民館にて「男性



セミナー」第1回目ノルディックウォーキングが開催されました。参加者は皆さんシニア世代の男性11名です。コースは館腰公民館から雷神山古

墳へ、それから信濃坂本原の総距離が3.5kmコースです。途中、水分休憩を2回とらながら歩きました。道端に咲いている花、落ちてい



る木、新か選する水路、雷神山古墳の大きな音城、街灯など、秋から冬と季節も変わりますが、誰一人疲れることなく、雷神の完



生のお話を聞きながら元気に歩かれました。その事を「年の功」と参加者の方からお話がありました。またポールを「人生の支え」に例えて「世の中何でも支えがあればいいですよ。」とお話している方もいらっしゃいました。気がつくとうゴール間近、あっという間の3.5kmでした。

コミュニケーションを求めて

皆さんに参加した理由をお聞きしました。「一人で黙々歩くより、皆で同じゴールに向かって歩いた方がずっと楽しい。コミュニケーションがとれる良い運動だし、いつの間にか長い距離を歩いている。汗、ビショリになるよ。」「自分が一人になった時、自立できるように。」「健康のために。」「何でも興味があり、やってみたくから。」「仲間をつくりたい。」と理由は皆さんそれぞれですが、共通する点は「コミュニケーション」なのではと思いました。



【取材を振り返って】

シニアライフを充実させるためには一人では難しく、年齢性別関係なく誰とでもコミュニケーションをとることが大切なのではと感じました。今回ノルディックウォーキングを通して、会話を楽しむことや、いい汗もかき、ゴールしたときは達成感も感じる事ができました。気分爽快！講師の先生は参加者の皆さんに「ノルディックウォーキングを楽しんで下さい。そして好きになって下さい。」と笑顔で伝えておりました。何かを始めたい・・・と考えている方は是非ノルディックウォーキングを始めてみませんか？コミュニケーションをとるひとつの方法として、参加してみてもいいのではないでしょうか。



地域で頑張る人を応援！

NPO 法人クラップス チアダンスサークル「ハーモニー」

毎週火曜日にレッスンをしているチアダンスサークル「ハーモニー」。メンバーは平均年齢68才、最高齢

76才！皆さん姿勢がとても美しい女性達です。今年で創設6年目、サークル名の「ハーモニー」はメンバーさん達が話し合い決めました。皆さんとても仲良しで、お互い励まし合いながら日々レッスンに励んでいます。

きっかけは「OH! バンデス」

メンバーの皆さんに入会のきっかけをお聞きしました。約6年前、テレビ番組「OH! バンデス」の放送を観て、



思い切って体験会に申し込んだのが始まりだそうです。「運動は苦手だけど、体験会だけでも参加してみよう」「一緒に目標を持って頑張り合

える仲間が欲しい。」「講師の先生がとてもやさしそうで楽しそう。」皆さん一人で申込みをして一人で参加されました。「仲間はそこできつくるもの」と考えていたからです。イベントの参加にも意欲的です。昨年秋に開催された「シニアいきいきまつり」に他世代チアと一緒に出演しました。今春はチアダンスサークルが集う「お楽しみ会」にも出演します。今後の目標は「ハーモニー」単独でイベントに出演することです。お声が掛かればいつでも出演できるよう日々、練習に励んでいます。



**「ハーモニー」講師
鈴木 百合子 先生**



35 歳の時にチアの門をたたきました。「何かをやり始めるのに年齢は関係ないので、やりたい事に出会った時、ためらわずに行動にでる。それは何でも良いのです。年齢、性別よりも本人の気持ちが一番大切なのです。」と笑顔で語っていただきました。

楽しさの中にある苦しい部分

「ハーモニー」のレッスンはとても楽しくて、内容も充実しています。ロコモ体操(生活不活発病予防体操)、ラジオ体操、クロスフロア、ダンスチェック等。レッスン中皆さんは真剣な表情で百合子先生の掛け声と手拍子に合わせて体をくるくると動かしていきます。

「ダンスの振り付けを覚えるのは苦しい部分です。でもそのハードルを越えて得た達成感はステージを通して感じる事ができます。ただ楽しいだけではなく、その中にある苦しさがあるから楽しいのです。」と百合子先生は笑顔で答えてくれました。

シニアライフを充実させる為に



メンバーのご家族からは「イキイキしている感じがいいね。」「とても若々しいね。」などの嬉しいメッセージあります。また、全員が「6年前から

年齢がストップした感じがする。」「年をとっていない感じ。」「とお互いうなずき合いながら口を揃えてお話してくれました。そして、全員が心掛けていること、それは「外出すること」だそうです。

洗顔→着替え→化粧→外出

「この行動が気持ちの切り替えにつながります。常に挑戦する気持ちを持ち続けること、それが大切です。」と皆さん力強くお話してくれました。

【取材を振り返って】

今回は長町で活動しているチアサークル取材させていただきました。シニア世代を楽しく生き生きと過ごす秘訣は、年齢に関係なく自分のやりたい事を仲間と共に楽しむことだと思いました。「長町はすぐ隣なので名取市民の皆さんにもぜひ参加してほしい」と講師の百合子先生。市内外問わず、シニア世代の方々の活躍が地域を超えて皆さんに伝わることで、「充実したシニアライフ」へのきっかけづくりになればと思います。興味を持たれた方は、是非参加してみてくださいはいかがでしょうか。

この情報紙は市民で構成される委員のみなさんが直接取材し、原稿を作成しています。
情報紙に関するご意見・ご要望、取上げてほしいテーマなどがありましたら下記までご連絡ください。
《 編集と発行 》 名取市男女共同参画推進委員会
事務局 男女共同・市民参画推進室
(〒981-1292 TEL 724-7146 FAX 384-9030)